

平成29年度 第1回 尼崎市社会教育委員会議について

標題の会議が、次のとおり行われましたので報告します。

1 日 時

平成29年5月29日（月） 午後3時から午後4時30分まで

2 場 所

尼崎市議会棟2階 第一委員会室

3 出欠状況（順不同）

- (1) 出席委員 9名（1名遅参）
- (2) 欠席委員 3名
- (3) 出席職員 教育長以下9名

4 会議成立の報告

定数12名中8名が出席し、会議が成立している旨を事務局より報告した。

5 会議内容

議事進行に先立ち、平成29年度第1回目の会議となるため、教育長からご挨拶いただいた。続いて、社会教育委員、出席職員の紹介があり、その後議事に入った。

教育長挨拶

- ・学社連携推進事業の「地域学校協働本部活動」に重点を置き、地域学校協働本部の取組は昨年度2校の小学校から始まったものが、今年度は11の小学校にまで広がっている。
- ・最終的には地域学校協働本部を全41小学校に設置し、地域と学校が共に子ども達のより良い成長を図っていけるように考えていきたい。
- ・コーディネーター委嘱式では、「この取組によって、地域で個々に活動していた団体の集まる機会ができ、窓口を一本化することができた。」というコーディネーターの意見があった。
- ・地域では様々な方が活動されている中、参集した話し合いはされづらいところだが、地域学校協働本部の組織の中で話し合いができるようになれば有難い。
- ・その他の社会教育事業として、スポーツや地域の歴史の学習、生涯学習などの社会教育を推進していかなければならないので、委員の意見を頂戴したい。
- ・今年の教育委員会のキャッチフレーズは「温かい出合いを大切に」である。いろいろな人との出合いを大切に、また、多面的な考え方の意見も聴きながら教育を推進していきたい。

協議事項

1 平成29年度社会教育関係主要事業について

総合計画における社会教育に関する施策「02生涯学習」及び施策「17地域の歴史」について、行政の取組内容を中心に事務局から説明を行った。

続いて、社会教育部各課における今年度の主要事業について各所属長より説明を行った。

《主な主要事業》

【社会教育課】

・ 学社連携推進事業

学校教育と社会教育が連携して進める事業で、学習成果を地域社会に活かすことのできる人づくり・しくみづくりを推進するため、地域の方の活動や学習を支援し、取組の充実や子どもたち・地域へ還元する機会の創出を図る。小学校の学校図書ボランティア支援、特別支援ボランティアの養成など、地域による学校支援を行う。

・ 人権啓発活動事業、人権啓発リーダー育成事業

基本的人権が尊重される地域社会の形成に向け、人権啓発資料の作成・配布、学習会や講演会を実施し、人権に関するリーダーの育成・グループでの学習の充実に努める。

今年度は7月29日(土)に大庄北中学校・浜田小学校で「兵庫県人権教育研究大会阪神地区大会」を教育委員会協力のもと、尼崎人権同和研究会主催で開催する。

ほか、尼崎学びのサポート事業、親子ボランティア体験学習事業、あまらぶ歴史体験学習事業について説明

【田能資料館担当】

・ 田能遺跡サポーター養成事業

一昨年から市民ボランティア約30名が小学校団体見学の解説の他、茅葺き屋根の葺き替え等に取り組んでいる。今後は技術面や歴史的な勉強会などを推進するとともに、サポーター登録者数の増強に取り組んでいく。

ほか、特別展事業、古代のくらし体験学習事業について説明

【文化財収蔵庫】

・ 歴史遺産を活かしたまちの魅力再発見事業

昨年度、国有地であった富松城跡を市が取得した。保存方法や市民とどのように活用していくか、今後課題と方向性を検討するべく、シンポジウムの開催やパンフレットを作成し、富松城跡の周知を図る。

・ 城内まちづくり整備事業

尼崎城の建築を含んだ城内地区全体の整備が進む中、現在の文化財収蔵庫を歴史館機能

として整備・活用を行うにあたり、今年度は施設の建築設計を予定している。建築設計は平成29年度中に完成し、平成30年度後半に建築着工、平成32年度中にリニューアルオープンを予定している。現在、総合文化センター内にある地域研究史料館と文化財収蔵庫の機能をあわせもつ施設として整備し、成良中学校琴城分校をリニューアルする施設内に移転させる予定である。

ほか、文化財保護啓発事業、文化財収蔵庫企画展事業、歴史資料保存公開事業について説明

【スポーツ振興課】

- ・ 「スポーツのまち尼崎」促進事業

スポーツの全国大会を誘致し、市民のスポーツへの参加意識の高揚、競技力の向上を促進し、「スポーツのまち」をアピールする。今年度、新たに誘致した「Wリーグ2017-2018シーズンゲーム(バスケットボール)」、「Vプレミアリーグ女子・尼崎大会(バレーボール)」、「天皇賜杯全日本軟式野球大会」他4大会を開催する。

- ・ スポーツ大会事業

市民のスポーツ振興と健康の保持・促進を図るために各種大会を開催する。

なお、昨年は100周年記念ハーフマラソンの開催により実施しなかった「あまがさき市民マラソン」を今年度は実施する。

ほか、ふれあいスポーツ推進事業、生涯スポーツ・レクリエーション事業、市民スポーツ振興事業、学校開放事業、学校プール開放事業、地区体育館等指定管理者管理運営事業、指定管理運営経費、地区体育館等施設運営事業、地区体育館等整備事業費、体育協会等補助金について説明

【中央図書館】

- ・ 図書館行事事業

市民の読書意欲の向上や子どもたちの読書への動機づけを図るため、「絵本読み聞かせ講座」や「おはなしボランティア養成講座」などの各種行事を実施する。

- ・ としょかん英語学習応援事業

関西国際大学生の協力のもと、2歳～小学校低学年児童に楽しく英語に接してもらう機会の提供を図ることを通して、ボランティア活動ができる機会の充実と学習の成果を地域づくりに活かす仕組みづくりの推進を図る。

ほか、障害者等サービス事業、図書等購入事業、図書館サービス網関係事業、資料整理事業、北図書館指定管理者管理運営事業、施設維持管理事業について説明

【中央公民館】

・ 家庭・地域教育推進事業

家庭を支える地域の教育力を高めるため、大きな括りで「ファミリーサポーター事業」「子どもふれあいスクール事業」「子育て学習世代間交流事業」を実施する。

・ 社会教育・地域力創生事業

地域社会で生活していくうえで生じる様々な地域課題、現代社会において社会問題化している課題等に焦点を当てた講座を展開していくため、「地域・現代学講座事業」、「生き方探求キャリア教育支援事業」、「地域おでかけ事業」などを実施する。

ほか、人権・平和教育推進事業、生涯学習推進事業、市民参加・交流・連携推進事業、地域学習館関係事業について説明

《委員からの意見等》

- ・ 昨年実施されたハーフマラソンは100周年限定の事業なのか。今年は例年行っている市民マラソンを実施するというのか。また、コースである武庫川河川敷が工事を行っていると聞くが、コースはどうするのか。

⇒（事務局）ハーフマラソンは100周年限定のイベントであり、今年度は例年どおり市民マラソンを行う。平成30年度以降は、できる限り天候や工事の影響を受けず、舗装されたコースを選定していきたい。

- ・ アウトソーシングの導入に向けたプランの中で社会教育課・公民館が所掌する人権事業を市長部局の人権事業を所掌する部署に移管する意見があるが、尼崎市はどうなるのか。社会教育において推進すべき人権教育は、今後も教育委員会で推進してほしい。

⇒（事務局）現時点で社会教育課・公民館が所掌する人権事業を市長部局の人権事業を所掌する部署に移管するような方向性はない。

- ・ 公民館事業の社会教育・地域力創生事業において、どのような地域課題に向き合うのか。

⇒（事務局）地域・現代学講座では、子どもの貧困、高齢化、環境や防災など、我が国で社会問題と言われる内容やまちづくり、地域で生活する上で抱える困りごとなどに焦点を当て、必要に応じて、各地域振興センターや社会福祉協議会とも連携して取り組んでいる。従来から実施しているもので、さらなる重点化も考えている。

⇒（委員）尼崎市特有の地域課題なども今後出てくると思う。その辺りを精査、課題を点検されながら、もう一歩踏み込んだ事業に取り組んでほしい。

⇒（委員）地域課題において、高齢者向けの講座（骨粗鬆症予防や感染症予防など）が多いようだが、貧困老人や老人の居場所の問題、虐待の通報に関する内容も今後の講座の中に取り入れてほしい。

- ・ 地域学習館関係事業の予算が高額だが、どのようなことを行っているのか。

⇒（事務局）地域学習館の館数は減っているが、引き続き、4館の維持管理が発生するので、

予算計上している。地域学習館の管理・運営は地域団体などが行っており、管理・運営に要する建物の維持管理等に充当している。

- ・ 生き方探求キャリア教育支援事業の対象は小学校だけなのか。地区別ではどのような実施状況か。また、地域住民が講師となって講義するとのことだが、地域の協力は得られているのか。

⇒ (事務局) 生き方探求キャリア教育支援事業の対象は、中学生を対象としている地区もあるが、平成28年度については、武庫地区は全小・中学校10校、園田地区は全8小学校、大庄・立花地区は各小学校1校の計20校が実施した。中央地区、小田地区は実施できていない。各学校では、キャリア教育が行われており、キャリア教育の方法について各学校の考えがある中で、このキャリア教育支援事業を採用するかどうかは学校の考えによる。公民館としては、引き続き、地区学校長会等で説明を行い、この事業を広めていきたいと考えている。講師をお願いしている地域の事業者の方々からは、子どものためなら、是非協力させていただきたいというお声をもらっている。

- ・ 北図書館の指定管理者は更新されたのか。建物見直しの検討を行っているが、どうなっているのか。

⇒ (事務局) 平成28年度に北図書館の指定管理者を更新している。市民から「北図書館がなくなるのか」と問い合わせがあるが、無くなるわけではない。北図書館は耐震化の問題があるため、公共施設の最適化に向けた方針に沿い、他の公共施設と現地点に近い場所で複合して建て替えられ、北図書館の機能を果たしていくことになると思う。

⇒ (委員) 情報が何もないと、市民は心配である。分かる範囲で今後も情報提供・発信を怠らないようお願いしたい。

- ・ 指定管理者運営である北図書館が、中央図書館よりも多く予算計上されているのはなぜか。

⇒ (事務局) 人件費を含んだ事業費であることから、市直営である中央図書館よりも多く予算が計上されている。

⇒ (委員) 北図書館指定管理者が提出している年間事業報告書を見せてほしい。報告書にはボランティアの方の活動なども明記しているので、詳しい報告を検討していただきたい。

- ・ 「がんばりカード」は、どこで入手できるのか。また周知はどのようにしているのか。

⇒ (事務局) 「がんばりカード」は地区体育館や支所などで配布し、市報あまがさきや尼崎市公式ホームページで周知している。スポーツイベント等でも配布しているが、運動を行わない市民の手元にも届くよう工夫したい。

2 平成29年度社会教育関係団体への補助金について

資料に沿って、補助金が尼崎市全体の方針で一律3%カットとなっていることを伝えた。なお、一部カットされていない団体については基金などの財源による旨を事務局から説明した。

3 平成29年度社会教育委員会議における協議事項について

今年度の協議内容について、社会教育委員に意見を募った。

各委員から出た意見をもとに関係部署からの説明を行うほか、社会教育に関する事業の点検、事業提案につながる意見をいただける機会を設けていくとともに、地域振興の観点から社会教育や公民館の活性化に向けて利用基準や機能などの議論も重ねていきたい旨を事務局から説明した。

《委員からの意見等》

- ・ かつては、市直営施設の公民館や体育館などが実施する市民向けの学習機会を把握していれば、社会教育における「学びの場」を掴むことができたが、現在は民間団体が実施している講座なども増え、市内における「学びの場」の全体像が把握しづらくなっている。社会教育的視点でどのような「学びの場」があり、どのような活動をしているのか把握する調査・研究を行う取組ができないか。
⇒（事務局）今年度から尼崎大学の関係で「学びの場」を統括した部署が旧聖トマス大学に設置された。尼崎大学の講座の開講周知だけでなく、講座内容の報告が見られる学び全般の情報サイトができたところである。
⇒（委員）自分が行う活動が社会教育の一環であると気がつかないこともある。尼崎市内の学びを集約する課も設置されたことから、社会教育部が尼崎大学とコラボレートしていくようなことも検討してはどうか。課が異なるとなかなか情報が入らないので、今年度中に委員会議内で紹介してほしい。
- ・ 社会教育委員会議に来て、学校教育と社会教育の連携性などがわかるようになってきたが、学校の教員には全く分からない。社会教育委員として、地域学校協働本部の流れなどを学ぶ必要があるかと思う。
⇒（事務局）地域学校協働本部の取組は昨年度から始まり、地域を含めた地域学校協働本部やコミュニティスクールに関する研修会を行った。今年度も研修を行うので、機会があれば中学校教諭にもお越しいただきたい。
- ・ 地域学校協働本部のコーディネーターはどのような人がされているのか。
⇒（事務局）11校で活動しているコーディネーターは、PTA役員やPTAのOB、社会福祉協議会の役員、まちづくりの活動をされている方などが就いている。活動グループには、登下校の見守りや環境の整備として花壇の整理や農作物の世話をしたり、子ども達の授業のサポートなど、活動内容をお任せしている。丁寧に説明を行いながら活動を広めていきたいので、一気にコーディネーターの役割を担う方は増えないかもしれないが、是非とも地域で皆様にもご協力願いたい。

4 平成28年度社会教育委員会議の協議内容について

「平成28年度社会教育委員会議の協議経過とまとめ」を作成し、教育委員会で報告すると

ころではあるが、教育委員会が社会教育委員会議と同日開催となったため次回報告することを事務局から説明した。

以 上